

## 武蔵野市立保健センター機能充実検討有識者会議(第1回)会議要録

日 時 : 令和4年4月28日(木曜日) 午後7時から午後8時25分  
場 所 : 市役所西棟8階 812会議室  
出席委員 : 田原順雄委員(座長)、星野衛一郎委員(副座長)、中嶋伸委員、飯川和智委員  
田原なるみ委員、大田静香委員、橋本創一委員  
事務局 : 総合政策部長、健康福祉部保健医療担当部長ほか

### 1 開会

### 2 総合政策部長挨拶

### 3 配付資料の確認

### 4 委員自己紹介

### 5 事務局紹介

## 6 議 事

### 議事1 座長及び副座長選出

座長は互選により田原順雄委員が選出され、副座長は座長の推薦により星野衛一郎委員が決定した。

### 議事2 武蔵野市立保健センター機能充実検討有識者会議の傍聴について

傍聴について、委員の了承を得た。傍聴者6名入場。

### 議事3 武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備基本計画(素案)について

### 議事4 武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備基本計画(素案)に対するパブリックコメントについて

事務局より「資料3-1 武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備基本計画(素案)」と「資料4 武蔵野市立保健センター増築及び複合施設整備基本計画(素案)に対する意見(パブリックコメント)について」説明

【委員】武蔵野市の保健センターの機能の1つとして、健診・検診があるが必要不可欠な機能だと思う。市内医療機関の中には、レントゲン機器を保有していない医療機関もある。保健センターで保有することにより、医療機関からの依頼検査ができる。これは、市民の利便性に繋がっている

る。また、この機能は地域医療の下支えになっている。更に、災害医療や感染対策など、これから先を見据えた保健センターの機能を拡充してもらいたい。これらは喫緊の課題と思う。

【委員】災害対策についての市民の意見をパブリックコメントで拝見した。単なる災害医療対策でなく、総合的な対策を検討してもらいたい。市民の声は非常に大事だ。非常電源や太陽光発電の導入なども考慮した施設がよい。

【委員】計画素案の重点整備の整理は良くできている。ポストコロナを見据えた記載となっている。特にこの2年あまりの新型コロナウイルス感染症の対応で、検査・診療に結び付きにくい方もいる、ということが明らかになり、こういったところで格差を感じた。地域の住民に近い保健センターの存在は重要だと思う。地域医療の連携の強化により、市民の検査・診療を関係機関が連携してやっていくことで、検査・診療に結び付きにくい方の対応の道筋が見えるのではないかと思う。現在の方向性で進めるのが望ましいと思う。

【座長】昭和62年当時の保健所法は現在の地域保健法となり、これにより都道府県が管轄する保健所と市区町村が主体となる保健センターの法的基盤となっている。当時武蔵野市に1つあった保健所は統括され、北多摩南部6市に1つとなった。現在では、保健所業務の市町村への権限移譲が大幅に進み、対人保健分野においては市町村の保健センターが中心的な役割を担うようになっている。また、保健センターの健康増進事業は非常に重要である。なぜなら、かつての国民健康づくりは、成人病対策としての「生活習慣の改善と疾病予防」が目的であったが、現在では「健康寿命の延伸」及び「健康格差の是正」を目的とし、生活習慣病の発症予防や重症化予防、社会生活を営むために必要な機能の維持向上などが重視されている。昭和62年の現保健センター設置当時を考えていた役割以上に多岐にわたり業務を担い、そのためスペース等の不足もきたしている。

【委員】「子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議」では、望ましい支援のため複合施設に必要な機能の議論を行い、新たな保健センターで、「こんな新しい事をやりたい」、「こんな施設を入れていきたい」といった意見や、施設の複合化のメリットなど様々な意見があった。あくまでそれぞれの機能が複合化した場合のシミュレーションの話であり、限定されたスペースの条件のもとでのイメージではなかった。喫緊の課題に対する意見もあったので、これらは網羅していきたいが、複合化すれば全て解決するか、というと分からない部分もある。本有識者会議でも整理していくと良い。

【座長】法律改正により子ども家庭センター設置の話も出てきているが、そういった流れによる影響は考えられるか？

【委員】国では、子ども家庭センターの設置を推進するという流れになっている。「子どもと子育て家庭への支援のあり方検討有識者会議」では、直接的にはこのセンターの話題には触れられなかったが、複合化の必要性等については、国の流れと一致している。問題が多様化している家庭における課題などについて、現時点での支援連携や情報連携の課題の整理等を主に行った。

【委員】助産師としては、妊娠期から切れ目のない支援ということで、子どもの成長を切れ目なく見守っていききたいが、保健センター事業では6歳までの支援となっている。教育分野の支援が新たな保健センターに入ってくることを聞き、保健と教育が様々な点で交わることが想定されているので、良い施設になると思う。

【副座長】給排水設備の劣化1になるまで、どういう施設保全をしていたのか知りたい。点検をやっていたと思うが、どういうかたちで実施していたのか伺いたい。

【事務局】給排水管等の保全部位については施設課の職員が年に1度目視による劣化調査を行い、

この結果に基づき保全計画を立てている。この他、事後になってしまうが、状態を見て改修を行ってきた。点検口等からの限られた範囲での目視調査のため、全てを網羅するのはなかなか難しい。

【副座長】点検・改修を計画的にやらないと、現在検討している新しい建物も60年使う予定の施設が、30年で改修をする事になってしまう。

事務局より「資料5 武蔵野市立保健センターにおける給排水応急対抗工事について」説明

【委員】応急対応工事は、現在の施設の状態を見て必要な工事ということか。

また、費用はどのくらいかかるのか。

【事務局】令和8年から令和9年が大規模改修の時期となるため、大規模改修を行うまでの対応として行うものである。費用としては、およそ400万円を見込んでいます。

【座長】この工事は日常業務に差し障りはないか。

【事務局】保健センターで実施する事業に支障のない時間に工事を行う。例えば一度に全ての箇所の工事を行うのではなく、計画的に時期や場所を分散させて、年度内に工事を完了させたいと思っている。

## 議事5 武蔵野市立保健センターにおける健診・検診機能について

事務局より「資料6 武蔵野市立保健センターにおける健診・検診機能について」説明

【座長】健診・検診事業は国民の健康づくりにおいて大切なところで、高齢者医療確保法や健康増進法などの法的基盤も整備されている。罹患率の低下と健康増進目的とした1次予防と早期発見・早期治療を目的とした二次予防の推進、さらにポピュレーションアプローチ、すなわち特定健診のような側面とがん検診・骨粗鬆症検診などハイリスクアプローチの面を十分に考慮することが求められている。これらを個々の医療機関だけで実施することは難しい。健康づくり事業団を含む、保健センターでも支えることは必要だ。

【委員】がん検診は受診率などプロセス指標があり、それを達成することが市民の健康維持につながるが、武蔵野市は目標達成しているものは少ない。健康づくり事業団で胃がん、肺がん検診などを実施することが受診率の向上に繋がる。更には、異常所見が見つかった場合は、更に精密な検査が必要だが、保健センターにCTがあることにより、市民が近いところで精密検査ができるのは重要なことだ。人間ドックと職域健診、特に人間ドックの検査内容は、他の民間医療機関と変わりはないが、従事する医師が健康づくり事業団附属診療所の医師であり、武蔵野赤十字の部長クラス以上の方をお願いしているため、質が担保されている。市の財産と言えるのではないか。

【座長】現在の保健センターができた時期と現在では、医師からみればCTの位置づけは全く違う。当時は高度医療機器であったが、X線CTは市内の医療機関でも持っているところもあり、もはや特殊なものとは言えない。保健センター自体が医療機関となっているが、CTを持っていることが過重な設備とは考えていない。

人間ドックはオプション検査も備え、一般検診では行わない検査も受診ができる。また、人間ドックは検査をするだけでなく、その後のフォローが大切だ。外部委託の医療機関の場合、どの程

度質が担保されているか分からないこともあるが、保健センターでは、診療能力の高い医師が結果に基づいた指針を示すとともに、異常所見やさらなる精査を要する場合は、地域の医療機関にしっかり繋ぐことができおり、このシステムができる地域はなかなか無い。また、検査の重要性について啓発し、地域の方が手軽に受けられることが、より健康に対する意識も高まっていく。

【座長】 歯科健診についてはどう思われるか。

【副座長】 歯科健診は特に医療機器を使わないが、保健センターの消毒機材の老朽化、採光の面で課題があり、採光の面では健診を実施する際に見にくい事もある、といった課題がある。そういったところが改善されれば、更に安心・安全な健診ができる。期待している。

【座長】 保健センターで医療機器を持ち、地域の医療機関はそのCTやエコーなどを利用しながら、診療を行っていく、これは地域医療の下支えをしていると言える。高額医療機器として敬遠されるべきものではなく、常備すべきものである。読影についても、武蔵野赤十字、杏林大学病院から医師に来ていただいている。保健センターという建物を持つ自治体はたくさんあるが、健康づくり事業団のような診療所があり、ドック検査など行うのは極めて特徴的であり、重要なことだと思う。全世代型の健康づくりに取り組んでいくためには、こういった機能をもった保健センターは必要だと思う。

【委員】 がんのセット検診を実施しているが、他の地域では、なかなかできない取り組みである。加えて、障害のある方がしっかりと地域で健診を受けられ、医療に繋がることは大変良いことである。バリアフリーも含めて、そういう視点で、今後も検診をすすめて欲しい。

【委員】 現在の機能が必要不可欠なものであることを理解していただき、増築改修工事は予定どおり進めていただきたい。

## 議事 6 その他

事務局より 事務連絡

【座長】 第1回武蔵野市立保健センター機能充実検討有識者会議を閉会する。